

⑧ 西氏功德碑



西道朴は名医で、人を憐れみ、誰にも優しく治療金が無ければ無料で、時に米麦すら与えたという。河面氏とともに草津の牡蠣養殖・販売等、草津の発展に尽くした。

⑨ 浄教寺



浄土真宗本願寺派。1491年(室町時代)鈴が峰観音寺として開基。1592年(戦国)正信坊により現在地に移転、浄教寺と改名。本堂の「斗拱」、お経堂の鍍金は見ごときである。境内の「臥龍の松」は国内最大級。

⑩ 教専寺



浄土真宗本願寺派。1561年(室町時代)草津に住んでいた武士が、本願寺に参詣、顕如上人の教えを受け、僧となり住居を寺とした。4本柱の向拝、本堂内の外陣に柱がないなど本堂の造りに特徴がある。

⑪ 薬師如来堂



廃寺になった阿弥陀寺の薬師如来像をこの地にお堂を移した。「おやっさん」と呼ばれ、今でも眼病に効く「薬師」として、遠近よりの信者が絶えない。境内には百度石がある。

⑫ 幸福稲荷



社神は倉稲魂神といわれ、穀物を司る神様である。昔、草津が大火や災害に苦しんだので、神頼みとして建立されたという。この付近は、三次藩の役所と、幕府巡検視の宿所があった所で、御茶屋敷とよんでいた。

⑬ 西楽寺



浄土真宗本願寺派。1613年(江戸時代)第2世信了坊が西楽寺を開基した。初め時宗、後に浄土真宗に改宗された。境内墓地には、牡蠣のヒビ建て養殖法を始めた「小林五郎左衛門」の墓がある。本堂の天井絵は見所。

⑭ 大釣井と地蔵尊



草津は歴史に残る大火が5回もあり、地蔵尊は火災を無くすために祀られたという。それ以後大火がなくなり、いまだに厚い信仰の対象となっている。大釣井は1600年(戦国時代)のころからあったものと思われ、街道を往来する人の飲料水となり、火事の場合、防火にも役立ったと思われる。

⑮ 住吉神社



1288年(鎌倉時代)建立されたという。社神は表筒男命、中筒男命、底筒男命である。この三柱は神功皇后の出兵時の海上の守護神で、海上安全の守り神として崇拝された。

路地(袖うだつ・遠見遮断・舟板堀)



袖うだつ

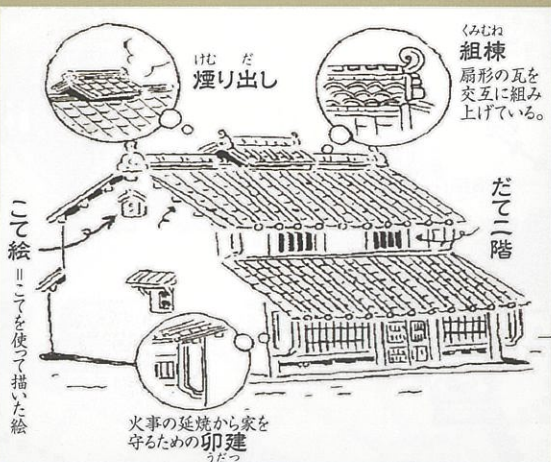


遠見遮断
(ジグザグ路)



舟板堀

町屋(まちや)



鍍絵(こてえ)

民家の土蔵やお寺の経蔵に左官鍍で描かれた漆喰芸術。当地区には11箇所(内1つは公民館内にて展示)で観ることができる。



<地図マーク>



土蔵



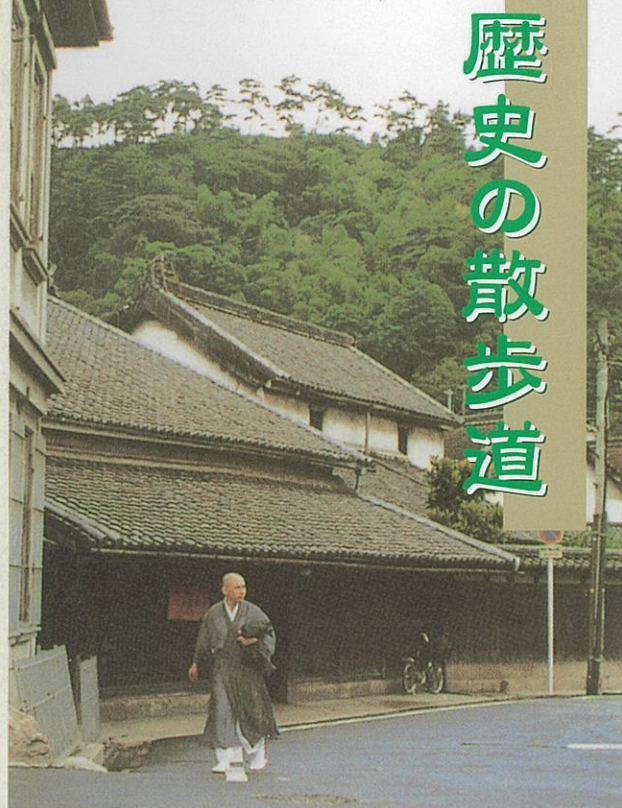
経蔵

企画・編集：草津まちづくりの会
発行：広島市草津公民館・広島市西区役所
援：(社)中国建設弘済会
合 せ：広島市草津公民館
広島市西区草津東二丁目20-7
TEL 082-271-2576



草津まち

歴史の散歩道



昔、草津は軍の港につかわれたので「軍津」と呼ばれ、それが「草津」になったといわれます。草津は千年以上もの歴史をもつ町で、いわれのある社寺が多数あります。まちの中を西国街道が通っており、江戸時代には間宿として栄え、広島藩(一時期は三次藩)の専売品などの積み出しを取り締まる番所や、浜田藩の船屋敷も置かれるなどにぎわっていました。また、かき養殖も盛んな地域であり、大阪に向けた「かき船」が評判を得て風物詩ともなり、広島のかきを有名にしました。

① 小泉家



天保年間(1829~1847・江戸時代)創業。宮島の御神酒は今も造っている。明治18年、明治天皇が立ち寄られ、お馬車を止められた処に記念碑「置風禁止處」を建てた。庭先には、重さ280Kgの「大門」の金具が保存されている。

② 慈光寺



1447年(室町時代)に禅宗寺院として建立された。1703年(江戸時代)に日蓮宗に改宗。妙見堂に妙見大菩薩を、最上堂に最上位経王大菩薩を祀る。寺なのに境内に神仏習合時代の鳥居がある。

③ 鷲森神社



960年(平安時代)建立。社神は市杵島姫命と金毘羅神である。御祭神が女神なので、弁天さんと称し、豊漁と海の安全を祈った。1828年(江戸時代)境内で初めて芝居興行がされた。境内に歌舞伎役者が寄進したと思われる手水鉢がある。

④ 幸神社



祭神は猿田彦乃神で、庚申から現在の幸神社になった。境内に樹齢400年の銀本の樹があり、幹の中に「いぬびわ」の「宿り木」がある。

⑤ 海蔵寺



1394~1427年(南北朝時代)中国の僧慈眼が建立されたといわれている曹洞宗の寺院。墓地には山中鹿之助の次女盛江の墓・北条氏直の墓がある。本堂の裏には江戸元禄時代に造られた石組の庭がある。

⑥ 草津八幡宮



625年(飛鳥・推古天皇時代)、多紀理姫乃命を祀ったのが創祀と言われている。12世紀(鎌倉時代)宇佐神宮派生の八幡大神を合祀し現在に至る。大般若経六百巻(市の重要文化財)、けんか神輿が有名。

⑦ 草津城址



創設時は、はつきりないが、戦国時代は武田氏、大内氏、毛利神社神主家、毛利氏が争った城である。1554年毛利時代は毛利水軍の将・見玉周防守方父子三代が城主となり、麻島令戦の際には毛利軍が軍議を開いた。城跡のふもとに、見玉就方、就英の墓がある。五穀方、就英の墓がある。